

犬のぬいぐるみの修理記録

平成 28 年 6 月 22 日

Dr竹内博則

Dr楠瀬雄章

1 左後足の損傷(骨折)、動けない



2 診察

スイッチを入れてみる、前足に連動して後足(損傷した足の根元が)も動き、鳴き声も出る
ぬいぐるみを脱がし、簡易な点検、損傷は足のみと判断し、解体する事にする



足の折損ヶ所

折損した足(右に本体取り付けの穴が)

3 解体・修理

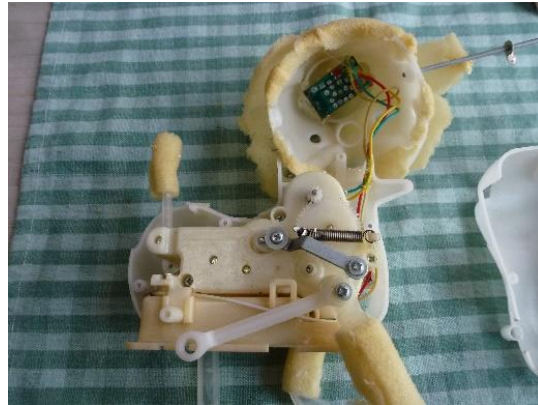
解体しながら点検、断線なし、損傷は足の骨折のみと判断(スイッチ不良:註1)
損傷(骨折)した足の難しい修復(接骨)はDr竹内さんが引き受けてくれたので、後だして、
修復後の足の取付け、着せ付けなどは楠瀬が引き受けました

犬のぬいぐるみの修理記録

平成 28 年 6 月 22 日

Dr竹内博則

Dr楠瀬雄章



解体した状況（右側半身）
スポンジで巻かれた左突起はシッポ（動く）

4 修理完了

前後左右の足は動き、鳴き声も出た、ぬいぐるみを着せ付け、修理完了
（修復度 ○（接骨120%、着せ付け方外70%（註2））



見事に修復された右後足（補強に取付けた金属はピアノ線）、本体に戻した後スムーズに動くようヤスリ等で滑らかにする



修理完了、ただし、たるみ（註2）と起動時に少しコツンとしないと動き始めない（歩行に異常なし）など、回復度は70%とした

犬のぬいぐるみの修理記録

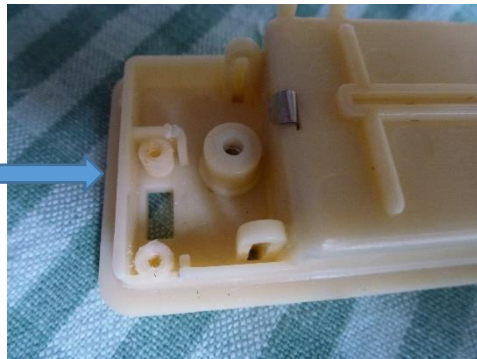
平成 28 年 6 月 22 日

Dr竹内博則

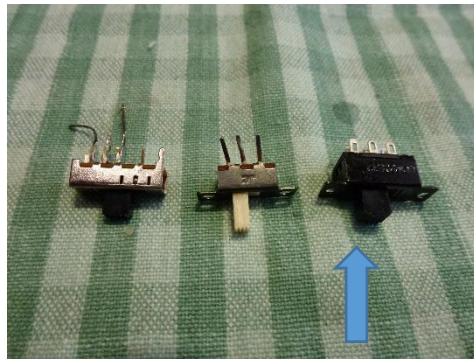
Dr楠瀬雄章

5 反省点など(註の説明)

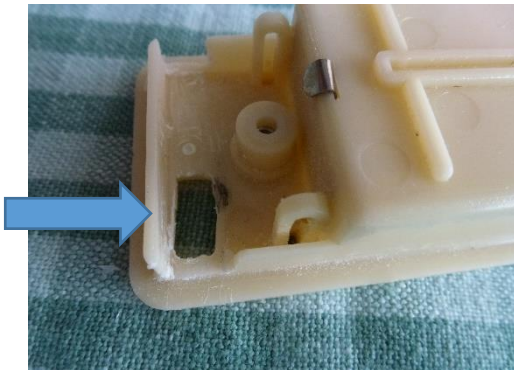
註1 : 接骨された足を取り付け全体の動きをチェックするためスイッチを入れるも作動せず、初診でスイッチが入り(偶然)、スイッチの不良を見落とす(スイッチの取換え)



スイッチ取り付け部分



中央: 取替えしたスイッチ、つまみが長い
右: 採用スイッチ、取付けが出来そう
左: 手持ちスイッチ、取り付けが難しく不採用



上左写真(矢印)を削り取り上
右写真の右スイッチを取り付け

註2 : 着付けで、たるみ(しわ)が生じた、下着(薄いスポンジを本体に貼り付け)がボロボロで剥がれ落ちる、落ちたスポンジをまた貼りつけ、布切れで代用したがふくらみが足りず、たるみが生じた(脱がす範囲は必要最小に留めること)



写真は修理が終わり、組立ても完了、着付けを始める前、頭はスポンジ(下着)をつけたまま、胴体のスポンジは剥がれた状態